

諸外国における大学図書館 司書職に関する調査

—— 中間報告 ——

国立大学図書館協議会司書職制度調査研究班委員

岡崎 義富

I はじめに

1. 国立大学図書館協議会司書職制度調査研究班は、昭和年51の協議会総会において、司書官制度をはじめ、専門職制について行った調査研究の最終報告を提出する予定である。調査研究班は、司書官案の発表以後、更に専門職制度の比較検討を深めるためには諸外国の大学図書館の実情調査が必要であることを痛感し、この調査を実施することとした。詳細な報告は、最終報告において行われる予定であり、従って本稿はその中間報告として理解されたい。

2. 専門職制度について、総合的に諸外国の制度を調査する試みは、大学図書館に関する限り、最初のものである。調査の方法については主として二つの方法が調査班内で検討された。第1は、われわれにとって、参考となるいくつかの大学図書館を選定し、その大学図書館について徹底的に調査を行う、いわば case study 方式を実施するやり方、第2は、ある程度の共通項目を立てて、アンケート方式として、相当数の大学に調査を依頼する方法ある。第1の方法にはサンプルの抽出が問題となり、第2の方法においては、歴史的に風土を異にする諸国で発展した制度なり実態を一樣な項目でしめくることができかどうかの問題であった。結局は、比較検討し客観性を求めるため共通項の必要性が認められ、第2の方法をとることとなった。

II 調査票について

1. 調査票 (Questionnaire) の作成にあたって、再び相当の時間を要することとなった。それぞれの大学図書館の特徴を表現する場合文章による記入部分を多くとり入れ、設問の範囲を大きくする方が間違いが少ないこととする考え方があった

が、一方、制度としての確立、具体化への資料として利用するには数字的な把握が必要であるとの意見も同時に提起された。そのため調査票の設問は折衷的となり複雑さを増して行った。

2. 調査票を、参考資料 (I) として末尾に付した。調査票の I では大学の規模を把握することに努めた。この数字は必ずしも直接的な調査でなければ得られないものではない。しかし図書館の機構との関連において是非必要なものであると考えてこの機会に調査することとした。II において図書館の規模を、図書館数、資料量、年間図書増加冊数、奉仕 (貸出数、目録の種類など) において把握しようと意図した。

III において職員の問題をとりあげた、第1に、Aでわれわれの根本的な問題である図書館業務を専門的職種と考える定義を求めた。これは理念の問題であって、既に十分な訓練制度と職業として確立されている国にとって適切な設問であるかどうかは問題があった。Bにおいて、採用時の基礎資格として、専門職の場合、(a)基礎学歴、(b)図書館学の学歴、(c)資格試験 (これには試験の実施者、受験資格)、(d)図書館の実務経験を求めた。ここでは一般的な制度、と司書職の水準を求める心算があった。(c)において図書館職員数を専門、非専門別に、また学歴別に求めた。規模との対応において人数の問題を考察し、そのなかでの専門職の職員数を検討する素材を求められることとした。学歴別の区分については国の教育制度の違いがあるが一応の項目としてあげた。(本報告においては各国の図書館員の養成制度について概説する予定である) C. 3 では、図書館の業務別にみた専門職員と非専門職員の配置を把握しようと努めた。業務の別け方についてはALの職務記述をもととし「大学図書館の業務分析」を参考とした。C. 1 ~ 7, IVについては、相当に複雑な内容となるた

諸外国における大学図書館司書職に関する調査

め、設問以外の資料を得られる配慮をし、最後に更にそのことを明記した。調査票の質問は当然に繁雑なものとなり、その質問項目も60を越えることとなった。回収率に対する憂慮がわれわれのなかに起るに十分な量となった。

3. 回収率を高くするためには、われわれがその回答に対して示す熱意が十分相手に伝えられる必要があると考えた。更に、一つの反省は諸外国からの情報の提供を受けることに対しわれわれは常に多くの努力を払っているが、しかし、われわれの側の事情を説明する機会はあまりなかったように思われる。そこで、一つには日本の現状を理解してもらい、又調査に対する誠意を示すため日本の大学図書館職員について、その制度、現状、問題点、また国立大学図書館協議会の活動など、こちら側の資料を作成して送付することとした。それには、調査票の要求に対応する密度が必要であるため、一般的な状況の論述、統計表、国立大学の図書館組織、館長、管理職、図書館職員、俸給表、図書館職員数、定員数、図書館機構図などをこの資料に含めることとした。これも大部のものとなって、英文にして14頁となった。

参考資料(2)(略)

III 調査票の送付

昭和49年8月30日付、諸外国における大学図書館司書職制度調査のためのアンケートを117大学に発送した。調査対象の選定にあたっては、特にこの調査に協力を得ている、赤星隆子(フランス)、斉藤雅英(ドイツ)、高野明(ソビエツト)の示唆を得て、われわれの参考となると想定される世界の主要大学を挙げ、ある程度そのなかで規模をも考慮することとした。また、比較的情報交換の機会が多い米国のみに限ることなく、ヨーロッパ各国の資料を十分入手できるよう配慮した。1974年12月の時点で回収できたものは、19校であった、そのうち、アンケートに対する回答ができないとするものが3校あった。アンケートに直接回答せず、資料を送付してくれた大学は19校のなかに含まれている。

われわれは、更に50年1月の時点で、アンケートの回収を促進するため督促の措置を取った、督促については、資金の関係もあって、未回収の大学全体でなく、資料の入手を是非したいと思う大

学に限ることとした。29大学に督促状を発送し、6月の時点で10大学から回答があり、そのうちアンケートに対する回答ができないとするもの2校

アンケート回収状況 (50.5.1) (別表1)

国名	依頼数	回答のあった数		未回答
		質問状に回答したもの	回答できないとするもの	
Canada	3	1	0	2
France	20	3	0	17
Germany				
(W)	26	7	1	18
(E)	1	0	0	1
Netherland	1	0	0	1
Italy	4	1	1	2
Sweden	2	0	0	2
Switzerland	4	3	1	0
U.K.	24	5	1	18
U.S.A	22	9	1	12
U.S.S.R	10	0	2	8
計	117	29	7	81

アンケートに回答のあった大学(別表2)

Canada	1	U. K.	6
① Toronto		1 Birmingham	
France	3	△ 2 Edingburgh	
1 Grenoble		3 Exter	
2 Sorbonne		④ Glasgow	
3 Strasbourg		⑤ Leeds	
Germany	8	⑥ London	
1 Bremen		U. S. A.	10
2 Bochum		① Cornell	
③ Frankfurt		② Harvard	
④ Göttingen		③ Illinois	
5 Hamburg		△ 4 MIT	
△ 6 Köln		⑤ Michigan	
⑦ Mannheim		⑥ Northwestern	
⑧ Saarbrucken		⑦ Pittsburgh	
Switzerland	4	⑧ Princeton	
△ 1 Basel		⑨ Stanford	
2 Bern		⑩ Yale	
3 Lausanne		U. S. S. R.	2
4 Genève		△ 1 lib. of Acad. of Science.	
Italy	2	△ 2 НАУЧНАЯ БИБЛИОТЕКА им.А.М. ГОРЬКОГО	
① Rome			
△ 2 Bologna			
△ 質問状に回答できないとするもの			
○ 資料のあるもの			

があった。

結果として(別表1)の通りとなった。われわれの意図した程十分な資料を回収することはできなかったが、同封送付された〔添付資料〕をも含め24校について資料を得ることができた。

資料送付のあった大学は(別表2)の通りである。(この中間報告をまとめている時点で(12月)追加が2通あった。)

IV 調査票の集計

1. アンケートの各項に付された回答は質的、量的に一様でない。同封された資料から補足推定する必要がある。設問に対する理解も想定されたようにまちまちな点かも多い。したがって、単純に算術平均的手法で結論を求めることはできない。しかし個別に添付された資料には図書館の組織、人事管理等について極めて重要な資料が含まれているので、主要なものについては、最終報告において提出できると考えている。現在までに集計されたものの一部——単純な数量的側面に限られるが、規模、蔵書数、職員数——を別表3としてあげた。これらの数値を直ちに調査表I、IIの規模との関連で能率計算する前に、組織構造及び国の図書館制度の分析が必要であろう。機構図については相当の資料の収集ができていたので最終報告において分析の予定である。

2. 職員組織

a. 米国

米国の図書館職員の養成については、既によく知られていることであるが、アメリカ図書館協会は図書館学コースを置く大学を認定する。調査票III A項には9大学中6校が回答を寄せた。無回答の大学は、このような一般的定義は困難であり、特定の分野に限定しない限り意味がないとするものである。回答校の全部が図書館学の修士(MLS)を要求していることが特徴的であった。コーネルでは、専門職の図書館員でアカデミックな地位にあるものはある分野の専門性をもつとともに図書館学の修士の資格のあるものが殆んどである。図書館学の学位のないPHDが若干は存在する。図書館管理のメンバーはすべてMLS(図書館学修士)を有している。ハーバードでは利用者のため各種の図書館の専門的な活動に従事する職員とし、特別の場合を除き、図書館の管理者は単

なる学術的分野の専門家とか経営者から選定されるべきでないとしている。その他の大学においてもMLSを要求していることと、管理者も図書館の専門職であることに言及している。

図書館員の等級については4階層を設定しているところが多い。例えばスタンフォード大学ではLibrarian Iは専門職としての第一段階で、図書館学の学位を有する人、専門職としての能力を確立しようとする人のもので、3年間の訓練期間に対する等級であり、3年の期間の末までに昇任が部門の長、又は館長によって推薦されない限り、Lib'n Iは仕事を辞すことになる。

Lib'n IIは、経験のある図書館員に対するもので、通常は、指導性と管理的な責任を職務に含むことになる。Lib'n IIIはある部門の長(分館長)の一般的な指導の下で実質的な管理責任をもつもの、又は長期の経験を有する図書館員で、直接的な管理的又は監督的な責任をもたないが、困難で重要な専門的業務を処理する優れた専門的能力のあるものに与えられるものである。Lib'n IVは一つの図書館の主要な行政責任を負う図書館員である。これらの4階層については添付資料に概説したコーネルの昇格方式をも参照して欲しい。

b. 英国

調査票III Aの定義には5校中、3校が回答を寄せた。①国の承認する図書館員の資格又はこれと同等の学力又は資格を有し、図書館業務の経験をもち、単なるルーチン的、書記的な仕事以上のものを行うもの、②、①に加え、利用者の必要な資料の組織化、ガイドの作成、資料・人事の管理、専門職員の養成を仕事としてあげ、一般的行政分野とはInstruction及び学問的な性格で異なるものとしている。

英国の場合、ALの行う試験が伝統的なもので制度の歴史は古いが、多くの改革が進行中である。図書館の等級にはこれも、館長の外は4等級となっている。

Librarian 館長 管理、企画、外部との接渉
Deputy Librarian 一般的部内管理(副館長)
Sub-Librarian (s) 主要な図書館活動の領域での組織化とその監督
Senior Assistant Librarian (s) 利用、選択、目録分類などの主要な部分での活動の組織化と監督

大学・図書館の規模、図書館員数

a) アメリカ(9大学)

▲原資料のままの数字

I A 大学名	1 Cornell	2 Illinois	3 Harvard	4 Michigan	5 North-western	6 Pittsburgh	7 Princeton	8 Stanford	9 Yale
B 調査者名	D.Y. Sellers	J.L. Parsons	E. Mitchell	L.F. Marko	D.B. Canelas	T.C. Kuo	J.K. Lucker	T. Kass	D.B. Engley
C 調査月日	74-9-18	74-11-14	74-11-20	74-10-10	74-9-23	74-9-16	74-10-11	75-4-2	74-11-20
D 設置主体	私立	州立	私立	州立	私立	州立	私立	私立	私立
E 大学の規模									
1. 学生数	16,218 {U 10,653 G 4,565}	33,857 {G 24,695 U 9,162}	22,250 {U 6,250 G 16,000 9,000*	33,482 {U 4,623 G 9,357}	16,000 {U 6,500 G 9,500}	24,000 {U 18,000 G 6,000 1,974	5,000 {U 4,500 G 1,200 1,000	11,260 {U 6,437 G 4,823 1,095	9,315 {U 4,899 G 4,416
2. 教員数									
3. 学部数									
4. 職員数			15,000	4,109		3,749	1,200		
II A 図書館の規模									
1. 図書館数	16	36*	95	37	11	22	19	11	42
2. 蔵書数	{5,418,775 4,158,006* 51,726 1,260,769 127,274(Gross)}	{6,883,527 4,920,173 77,471 1,963,354 153,731}	{9,000,000 4,799,949 38,038 1,134,471 205,636(Gross)}	{5,934,420 4,799,949 38,038 1,134,471 158,947}	{2,725,000 2,300,000 26,000 425,000 86,000}	{2,423,742 1,777,275 26,580 289,294 188,359}	{3,453,824 2,615,317 30,809 838,507 103,510}	{5,916,955 2,088,108 31,188 3,828,847 94,746}	{7,222,353 6,350,824 60,069 871,529 175,656}
B 図書館サービス	貸出冊数	1,671,836	1,792,967	1,124,187	800,000	239,950	625,717	1,073,833	1,023,566
III C 図書館員数	442.7(%)	487(%)	865(%)	514(%)	345(%)	284(%)	364(%)	303(%)	559(%)
専門職々員数	129.5(29.3)	163(33.5)	241(27.8)**	128(25.0)	100(29.0)	91(32.0)	85(23.0)	75(25.0)	171(31.0)
非専門職々員数	269.2(60.8)	228(46.8)	447(51.8)	295(57.0)	160(46.0)	158(56.0)	209(57.0)	173(57.0)	363(65.0)
その他の職員数			86(9.9)				30(8.0)		
学生アルバイト(Full Time)	44(9.0)	96(19.7)	91(11.0)	91(18.0)	85(25.0)	35(12.0)	40(11.0)	55(18.0)	25(4.0)
	*含製本済雑誌	*中央館・分館(35)	*講師その他(5,500を含まない)	*専門職コース、医・歯・法					
	**図書館内利用を含まない	**図書館内利用を含まない	**図書館専門家がいない						
			他に15名いる						

諸外国における大学図書館司書職に関する調査

b) イギリス (5大学)

I A 大学名	1 Birmingham	2 Exeter	3 Glasgow	4 Leeds	5 London
B 調査者名		C.F. Scott	R.O. Mackenna	E.A. Read	J.M. Harries
C 調査月日	74-10-28	74-9-13	75-4-3	74-10-00	75-7-4
D 設置主体	国立	—			
E 大学の規模					
1. 学生数	7,250 {U 5,500 {G 1,750	3,680 {U 3,078 {G 602	9,761 {U 3,388 {G 1,373	9,653 {U 7,589 {G 2,064	35,000 {U 25,000 {G 10,000
2. 教員数	1,000	400	1,400	1,150	6,500
3. 学部数		6			
4. 職員数	▲ 150	—	533	1,110	
II A 図書館の規模					
1. 図書館数	4	10	118*	40	1
2. 蔵書数	925,000	▲ 317,000	▲ 1,263,000	▲ 1,116,022	1,000,000
a 単行本		250,000	727,000	852,541	
b 雑誌タイトル数	8,000	2,500	11,000	* 8,491	6,000
c 非図書資料数		10,000	200,000	151,995	
d 年間受入図書数	35,000	16,000	28,500	55,971	23,000
B 図書館サービス					
貸出冊数	250,000	100,000	183,851	303,499	150,000
III C 図書館員数	176(%)	68.5(%)	172(%)	123(%)	172(%)
専門職職員数	54(31.)	23(34.)	57(33.)	42(34.)	57(33.)
非専門職々員数	62(35.)	20(29.)	84(49.)	67(54.)	23(13.)
その他の職員数	60(34.)	10.5(15.)	23(13.)	2(2.)	8(5.)
学生アルバイト (Full Time)		15.(21.)	8(5.)		
			*中央1分7 学部110	*カレントのもの のみ	

c) ドイツ (6大学)

I A 大学名	1 Bochm	2 Bremen	3 Frankfurt	4 Göttingen	5 Hamburg	6 Mannheim
B 調査者名	Abams	Dr. Kuth	R. Eck.	Schuster	E. Knöfel	H. Haas
C 調査月日	74-10-7	75-4-7	74-9-24	74-9-11	74-12-12	74-9-24
D 設置主体	IV 3. ii を参照のこと					
E 大学の規模						
1. 学生数	18,800	4,000	20,000	19,300	24,873	6,094
2. 教員数	1,345	280	3,200	1,900	1,824	
3. 学部数	18			8*	16	8
4. 職員数	1,988	600	2,600	2,100	1,054	373
II A 図書館の規模						
1. 図書館数		8	150	121**	114	9
2. 蔵書数	824,000	1,150,000	2,250,666(中央)	2,350,000(中央)	1,440,800(中央)	897,000
a 単行本			50,000			
b 雑誌タイトル数	4,050	13,000	{中央12,943 {部局38,000		6,500	
c 非図書資料数	287		15,000(Mss)		102,013	
d 年間受入図書数	40,949	76,000	75,000(中央)	45,000	49,000	30,000
B 図書館サービス						
貸出冊数	160,520		445,000	349,500	430,677	103,000

III C 図書館員数	82 (%)	222(%)	222(%)	269(%)	188(%)	61(%)
専門職職員数	24.5(30.)	100(45.)	196(88.)	46(17.)	79(42.)	28(46.)
非専門職々員数	35.5(43.)	107(48.)	7(3.)	178(66.)	78(41.)	33(54.)
その他の職員数	22.(27.)	15(7.)	9(4.)		19(10.)	
学生アルバイト (Full Time)			10(4.)	45(17.)	12(6.)	
				*Fach: 19 **中 央館1, 部局120		

b) フランス (3大学)

I A 大学名	1 Grenoble	2 Sorbonne	3 Strasbourg
B 調査者名	Chauveinc	—	Charreau
C 調査月日	74-4-4	75-1-1	74-12-18
D 設置主体	国立	国立	国立
E 大学の規模			
1. 学生数	27,345	260,000	19,088 {U 15,919 G 3,169}
2. 教員数	2,910	▲ 1,389	
3. 学部数		13	
4. 職員数			
II A 図書館の規模			
1. 図書館数	4	45	1 bib. (4 sect)
2. 蔵書数			[3,087,000]
a 単行本	683,000	1,800,000	3,000,000
b 雑誌タイトル数	6,508	5,330	6,569
c 非図書資料数			87,000
d 年間受入図書数	6,894	37,000	31,930
B 図書館サービス			
貸出冊数	166,225	38,681*	152,572
III C 図書館員数	81(%)	119(%)	131(%)
専門職職員数	13(16.)	119	46(35.)
非専門職々員数	21(25.)		84(64.)
その他の職員数	47(58.)		1(1.)
学生アルバイト (Full Time)			0

e) その他 (スイス, イタリア, カナダ)

I A 大学名	1 Bern	2 Genève	3 Lausanne	4 Rome	5 Toront.
B 調査者名		P. Chaix	J.P. Clavel		S.A. Merry
C 調査月日	75-5-15	75-4-29	74-11-10		75-4-24
D 設置主体	cant.	cant.	cant.		Provi.
E 大学の規模					
1. 学生数	6,000	7,000	4,018		44,100 {U 32,800 G 11,300}
2. 教員数		1,890*	475		3,415
3. 学部数		6	8		
4. 職員数		1,000	74		4,900

諸外国における大学図書館司書職に関する調査

II A 図書館の規模					
1. 図書館数		1	53		40
2. 蔵書数	1,100,000	2,200,000			▲ 3,619,020
a 単行本		1,200,000	1,000,000	820,000	2,619,100
b 雑誌タイトル数	3,300	10,000	12,000	5,810	29,144
c 非図書資料数		500(MF)			{ 887,516(MF)
d 年間受入図書数	17,000('73)	20,000	20,572(中央)	7,540	{ 112,400(MAP)
B 図書館サービス 貸出冊数	45,000('73)	70,000	109,692(中央)	19,240	125,000
III C 図書館員数		45(%)	77(%)		647(%)
専門職員数		18(40.)	38(49.)		124(19.)
非専門職々員数		27(60.)	27(35.)		475(73.)
その他の職員数		1	3 (オートメーション)		16(2.)
学生アルバイト (Full Time)			9(12.)		32(5.)
		*教授 890 助教授 外 1,000			

Assistant Librarian(s) 所属する部門、部局における専門的な任務の遂行

グラスゴー大学からは特に明解な組織図及び人員の等級配置図が送られてきている。

c. ドイツ

調査票ⅢAについては、設問に対する受けとり方が相当にまちまちであった。図書館職員は、情報の交換センター・保存の場所として図書館の特別な機能の確保をすること。新しい情報を含むドキュメントを選択し、保存し、索引を作りできるだけ速く情報要求に応えるものであるとするもの、また ① Wissenschaftliche Bibliothekare ② Diplombibliothekare ③ Technische Dienste など国の公務員諸法に定められた職位に対する司書の職位を示したところがあった。これについては齊藤雅英 西ドイツ大学図書館職員現況、「大学図書館研究」V pp. 89-95, 1974. を参照されたい。またドイツの大学図書館の制度の概要を知るに、Ⅲ3〔添付〕資料の ii をも参考にされたい。

d. フランス

フランスでも国の定める統一的な制度がある。主任司書 (Conservateur en chef), 上級司書 (Conservateur), 司書補 (Sous-bibliothecaire), があり、上級司書は、大学率以上又は司書補として図書館で5年以上の経験をもつものが国立高等図書館学校 (E. N. S. F) に入り、上級司書免状 (Diplôme Supérieur de Bibliothecaire) をもつ

ものか又は古文書官免状 (Diplôme d'Archiviste Paleographe) をもつものに限られており、上記の資格なしでは上級司書になることは不可能に近いとされている。ⅢAに回答された大学は、そのうちソルボンヌでは専門職のカテゴリーを学術、技術、管理、サービスの4グループとしていること、ストラズプールの回答は利用者のための資料、蔵書の発展と、読者に対して必要な資料の利用を援助するなどの記述にとどまっている。

e. その他

ジュネーブ、ベルン、ローザンヌの各大学から資料を得た。(ヨーロッパの大学図書館を論ずる場合それが大学固有の図書館でないことに注意する必要がある、本報告においては論述する予定である)

イタリアについては、アレツサンドリーナ図書館 (ローマ大学内, Biblioteca Universitaria Alessandrina f. 1661) からの回答をえた。

資料数と目録の種類項目についてのみ記入があった。しかし添付の機構図から、①管理担当の職員と; ②Servizi al Pubblico, ③Uffici delle Procedure Librarie, ④Servizi-Distribuzione, ⑤Servizio serale に職員が配置されている。職員のカテゴリーには、A. Bibliotecari (図書館司書-Laurea (大学卒の資格) を必要とする, B. Aiuto-bibliotecari (図書館司書補-media superiore の diploma (高卒) を必要とする C. Distributori e dattilografi (一般事務職 scuola

media inferiore を必要とする), D. Personale ausiliario (事務補佐—licenza elementare (小卒) を必要とする) 総職員数 111 名 (A=9, B=31, C=28, D=43), 部門ごとの配置は次の通りである。

アレクサンドリーナ図書館の人員配置

	A	B	C	D	
管理①	1	3	4		8
運用②	2	10	13	2	27
整理③	6	17	9	3	35
[奉仕]④			1	36	37
[逐刊]⑤		1	1	2	4
	9	31	28	43	111

更にトロント大学から資料を付した十分な回答が寄せられている。

3. [添付資料] について。

調査票とともに送付された [添付資料] は、図書館案内、年報類、また人事取扱規則など多様である。直接的に問題に接近することに役立つものとしては、制度の差はあるもののやはり米国の資料が多かった。その一つとして、ここでコーネル大学の昇格の取扱いに関する方式 (i) を参考までにあげる。いわば専門職として確立された社会で、同僚の昇格に参加しつつもなお極めて厳しい方式が進んでいることを物語っている。コーネル大学の規模、職員数については集計の項を参照されたい。

(ii) として、フランクフルト大学の [添付資料] を提示した。ドイツの図書館の制度を知るに一つのよい例と考える。

(i) コーネル大学図書館員の昇格制度

次の文書は、コーネル大学の図書館員会議 (Library Assembly) が承認し、コーネル大学の図書館長が一般的な適用を認めたものである。

コーネル大学における図書館員

コーネル大学における図書館員は四つの等級のうちの何れかに属する。少くとも、図書館学の学位、又はそれと同等の資格を有するものは、通常、Assistant Librarian のレベルで採用され、以後、資格の向上とともに、順次 Senior Assistant Librarian, Associate Librarian, 更に Librarian に昇格される、これは従事する事務分

掌とは関連しない。

図書館員の採用と昇格とは、図書館長の推薦により、大学長が行う。事務分掌は図書館長が行う。

すべての図書館員は図書館員会議のメンバーである、この会議は、学期中は毎月、夏期に一回開催される。図書館長は、図書館員会議の議長である。

採用 コーネルの外部から、図書館員を、その資格に応じた等級で採用することができる。Assistant 又は Senior Assistant Librarian 採用候補者は、予定される部局の長 (chairman) が館長補佐と協議して、図書館長に推薦する。

候補者の資格が Associate Librarian 又は Librarian の場合は、その候補者の等級がどうあるべきかについて館長に助言するため図書館員の特別委員会が設置される。特別委員会は、特別委員会常置委員会 (Standing Committee on Ad Hoc Committee) が任命し、特に定めのない限り、3名の上級の図書館員からなる、その1名は候補者の予定されている部局の長であり、また少くとも、当該部局以外からも1名が加わる。

昇格

Assistant Librarian から Senior Assistant Librarian への昇格は、その候補の部局の長 (Chairman) が、館長補佐と協議し、図書館長に推薦する。部局の長の推薦は、文書をもってなされ、彼自身の判断のみならず、指名されるものの所属する部その他の専門以外のメンバーの判断をも含めてなされるものとする。この行為は、Assistant Librarian の場合、指名期間の第2年で行われ、第1年に行われることは稀れであり、第3年で行われることは決してない。昇格が第3年の終りになされないときは、その個人は、予告が6ヶ月前に与えられるが、それ以上図書館の職員として留ることはできない。これには例外はない。

Senior Assistant Librarian から Associate Librarian への昇格は、常置委員会 (前述) によって任命された特別委員会が図書館長に文書をもって推薦する。特別委員会はメンバーを公表せず3名の名の上級図書館員、そのうち1名は候補者の予定されている部局の長、また、その部局以外の1名が少くとも加わる。人事担当官 (Personne

officer) は、特別委員会とこれに関する資料情報の仲介者であり、その報告書は非公開で図書館長と館長業務の執行を担当する職員によって使用される。この昇格のための評価は、通常、Senior Assistant Librarian の指名期間の3年目に行われる。第2年に行われることは稀れで、第3年を過ぎては決して行われぬ。彼が、Associate Librarian として昇格できないと判断された場合、彼の図書館職員としての任命期間は、少なくとも、6ヶ月以前に通告される。

Librarian に対する昇格の時期については定めがない。専門職としての顕著なる貢献をする人々のためにその機会は保有されている。

昇格の基準

等級上の昇格における評価は一般に仕事に対する知識と、仕事の功績に基づいてなされる。仕事に対する知識は図書館員としての正規の教育から、外国語の修得、ある主題についての資格、また経験からひき出される。仕事の功績には、専門的判断の能力、仕事の独立性、他の人々に対し、必要とする指導をすること、同僚との協調性、これらは、責任を負うための信頼性、判断、積極性、また仕事の組織化に対する能力、困難な状態での行動、批判・助言への対応、仕事の質を高度に保つこと、学生及び教官との関係、人格、健康、創造性など一般的な性格にも同様に反映している。

仕事の知識、仕事の功績に加えて、候補者は、図書館員であることに対し、その熱心さを、献身的努力を、またその公約を表現しなければならない。自分自身の専門性の向上に努め、そして学習の機会を求めることが必要である。研究とその発表が考えられなければならない。会議に参加し、専門的組織で活動することによって、また、専門的なツールを準備し、内部的な報告をつくることによってその行動は評価されよう。図書館員であることに関係ない社会奉仕活動も、もしそれが候補者の全体の評価に必要であるなら考慮されるべきであろう。

職務分掌

ある部局内の仕事の割当は通常は図書館長によって部局の長 (Chairman) に委任される。しかし、部局の長を任命するにあたっては、図書館長は、特別委員会常置委員会によって任命された上

級図書館員の特別委員会の助言を受ける。部局の長に関する特別委員会は、3名の図書館員からなり、少くともその2名は部局の長である。特別委員会は、部局の図書館員としての候補を評価するときは、その奉仕する学部などを代表する教官を少くとも1名加える。そして特別委員会の構成はその学部の又は部門の長 (学部長) の検討と承認を得る。推薦項目を決定するときは特別委員会は同僚や教官のみならず学生や非専門の職員の意見をも求める。

館長業務の執行を担当する職務に対する候補者については別の構成による。

特別委員会に関する常置委員会

この委員会は5名の図書館員からなり、各委員は Academic Staff によって2年の任期で選挙される。2名又は3名のメンバーについておのおの任期をずらして行われる。委員会のメンバー候補者は図書館員会議のフロアーから出される。委員長は互選とし、図書館員の昇格に関する評価の時期について管理責任のある人事担当官が会議を招集する。

免職

Associate Librarian 及び Librarian の免職については、その職員がコーネル大学図書館のに残留することが適切でないような、業務の遂行に対する重大な職務怠慢の事態のある場合のみ、正当な手続をもって行われる。

そのような事態の起ったときは、それを通告し、館長は調査を行い、決定を下す。その決定が、その図書館員に対して都合の悪い場合は、審問会議を要求し得る。この場合は、館長は5名の上級図書館員からなる審問委員会を任命し、そのうち2名は当該図書館員が選ぶことができ、2名は館長が任命する。当該図書館員は助言者、法律的な相談役を伴ってその会議に出席できる。その委員会は文書によって報告と推薦事項を館長に提出する、館長は最終決定を行う。(1970. 10. 1)

(ii) フランクフルト大学図書館の概要

(同図書館の回答添付資料より)

フランクフルト市、及び大学の学術図書館の組織及び内部構造は、調査票に添付されているような日本における状況とは、いくつかの点で比較することはできません。

貴方の要請する調査に必要なデータはでき得る限り提供するよう努力します。しかし、われわれのもついくつかの資料は、質問に対して適切でもなく、またそれを明確にするものでもありません。

市立中央・大学図書館は、大学の教育と研究のために学術文献を提供する一般的なセンターとしての機能をもつ一方、フランクフルトの市及びその周辺の住民に対して、同様の責務をもっています。この二重性格は、次下の事実によって明瞭でありましょう、すなわち、フランクフルト大学は、2万の学生を有するに過ぎませんが、図書館は1973年には32,000の積極的な読者をもちました。(この数字は、昨年中に図書を自宅利用のため貸出した個人の数のみが含まれているに過ぎません。

中央図書館と大学は密接な結びつきをもち、この傾向は現今ますます強い協力の方向をとって行くであります。しかし、今日、大学における個々の施設がそれぞれ専門の部局図書館をなお維持しています。(例えば、法学部の中央図書館と、その他各種の法学施設が24万冊の蔵書をもっています。設問II Aに関連してはすべてのデータを分割しました。それ以上のすべての情報及びデータは中央図書館についてのみいえるものであります。

一方、大学は Hesse 州の財政によりますし、中央図書館の支持はフランクフルト市、Hesse 州及び、いくつかの全国的財団によってなされています。フランクフルトの市・大学図書館の館長は同時に全体の大学図書館の図書館長であり、Hesse 州及びその他の隣接しているいくつかの州におけるすべての図書館員の専門的な訓練を行う図書館学校の学長でもあります。フランクフルト中央図書館の専門的職員の数人は、同時に、図書館と同じ建物のなかにあるこの図書館学校の講師又は教授であります。

ドイツの学術図書館(大学・州及び国の図書館)は一般に専門的訓練を経た図書館員のみを採用します。一般的な行政の訓練を受けている職員は、図書館員の仕事に関係のない会計、人事管理、その他の明確な行政的目的のため採用されず。大学の部局(学部)の図書館は一般に学生のアシスタントと準専門職の職員によって運営され

ていて、その多くがパートタイムの職員であります。近い将来にこれを廃止できればと思っています。

図書館員の専門的訓練

ドイツにおけるすべての図書館職員の専門的訓練は、連邦の各州における特別な図書館学校でなされます。これらの図書館学校は大学の study program の部分とはなっていません。これらの学校の教育は、一般に少数の専任講師であります。多くの職員メンバーは、周辺の学術図書館の積極的な図書館員か行政職員であります。条件は、学校によって、また州によって異なります。上述の組織は Hesse 州における図書館についていえることであります。それぞれ異なる学校の最終試験は連邦のすべての州において認められます。

専門職員の種類

a) Höhere Dienst [公務員の職務・高級]の資格取得の養成を受けるには、大学卒(その人の選択する主題において)、または博士号、それと同等の資格が要求されます。候補者は、学術的な研究が必要とする条件・方法に精通していることが明確にされなければなりません。その後候補者は大規模な学術図書館で一年間インターンとして仕事をします。次に更に一年、図書館学校における集中的な理論的訓練に従います。最終試験は、州の図書館長の評議会が行います。これを終了した図書館員は Höhere Dienst となり、その任務は一般に、彼の専門的研究領域に関する限りにおいて図書館で購入される資料の選択と分類であります。近時、図書館業務の管理的部分についても図書館学校は重きをおくようになりました。このグループに属する図書館員は、図書館の部門の長また最高のスタッフとして選ばれます。

b) gehobene Dienst (上級)にはドイツの高等学校卒、これはアメリカの短期大学に対応するものでありますが、の資格が要求されます。(応募者は、外国語3ヶ国語の知識を必要とする)。インターン2年の後、1年間の理論的訓練を図書館学校で受けます。この gehobene Dienst は目録、貸出などの仕事を主として行います。

c) mittlere Dienst (中級)は高等学校卒の資格と18ヶ月の訓練を要し、この図書館員は一般に実動的、技術的な図書館業務にあたります。

THE COUNCIL OF JAPANESE NATIONAL UNIVERSITY LIBRARIES
—QUESTIONNAIRE—

- I. A. Name of College or University _____
 B. Information supplied by: Title _____ Name _____
 C. Date _____
 D. Type of University: Private, Municipal, National, others
 E. Size of the University
 1. Number of Students _____ Undergraduate _____
 Graduate _____
 2. Number of Academic Staff _____
 3. Number of Faculty _____
 4. Number of Administrative Staff _____
- II. A. Size of the Library
 1. Number of Libraries _____
 2. Library Resources (at the end of 1973) _____
 a. Books _____
 b. Periodical Titles _____
 c. Non-Book Materials _____
 d. Number of Books added during the Year _____
- B. Library Services
 1. Number of Books Borrowed during the Year _____
 2. Catalog: Author, Title, Classified, Subject, Any Other Catalog
 3. Special Projects conducted by the Library
- III. Library Personnel
 A. What is your definition of the library profession as a specialization?
 (especially the difference between regular library work and general administration)
 B. What are the basic qualifications required for appointment to your library staff?
 1. Professional
 a. Basic Educational Background
 b. Basic Background in Library Science
 c. Qualifying Examination
 1) Controller of the Examination
 2) Initial qualifications for the Examination
 (For example, with a university degree)
 d. Practical Library Experience or Previous Work Experience in a Library
2. Non-Professional
 a. Basic Educational Background
- C. Number of Library Personnel
 1. Number of Professional and Non-Professional Staff
 a. Professional _____
 b. Non-Professional _____
 c. Other Staff _____
 d. Student Assistants _____
2. Educational Background of Staff
 a. Junior College _____
 b. Graduate _____
 c. Masters _____

d. Doctorate _____

e. Others _____

3. Classification of Staff According to Duties

Library Duties (AL)	Professional	Non-Professional	Others
a. General Administration			
b. Personnel Management			
c. Public Relations			
d. Selections and Withdraw of Material			
e. Acquisition and Disposal of Material			
f. Classification and Cataloging, including Stock Recording and Indexing			
g. Mechanical Preparation of material			
h. Reference Work			
i. Assistance to Readers			
j. Registration of Borrowers and Circulation			
k. Physical Upkeep of Material			
l. Care of Shelves, Files, and Equipment			
m. Information Handling			
n. Others			

Total

4. Ranking of Professional Staff (or Grade)

Title or Grade	Qualification	Career	Duties
----------------	---------------	--------	--------

5. Number of Professional Staff Positions

	Qualification	Grade	Number
--	---------------	-------	--------

a. Librarian (Director)

b. Associate or Assistant Librarian

c. Branch Librarian

d. Departmental or Divisional Librarian

Total Number of Positions _____

6. Number of Staff Having Academic Status

a. Professor _____

b. Associate Professor _____

c. Assistant Professor _____

d. Lecturer

7. Is there any professional member on your library staff who participates in the teaching program?

IV. A. Would it be possible for you to give us any organizational charts of your library?

B. What is the promotion scheme in your library?

C. Is there any difference between the salary of library personnel and the academic and general administrative staff?

D. Does the library have a clear position within the general administrative arrangements for the university? Who has the authority to appoint the head librarian or what type of committee or organization selects the candidate?

It would be greatly appreciated if you could send us any information or material, such as a staff manual, which would help clarify or elaborate on any or all of the above items.